

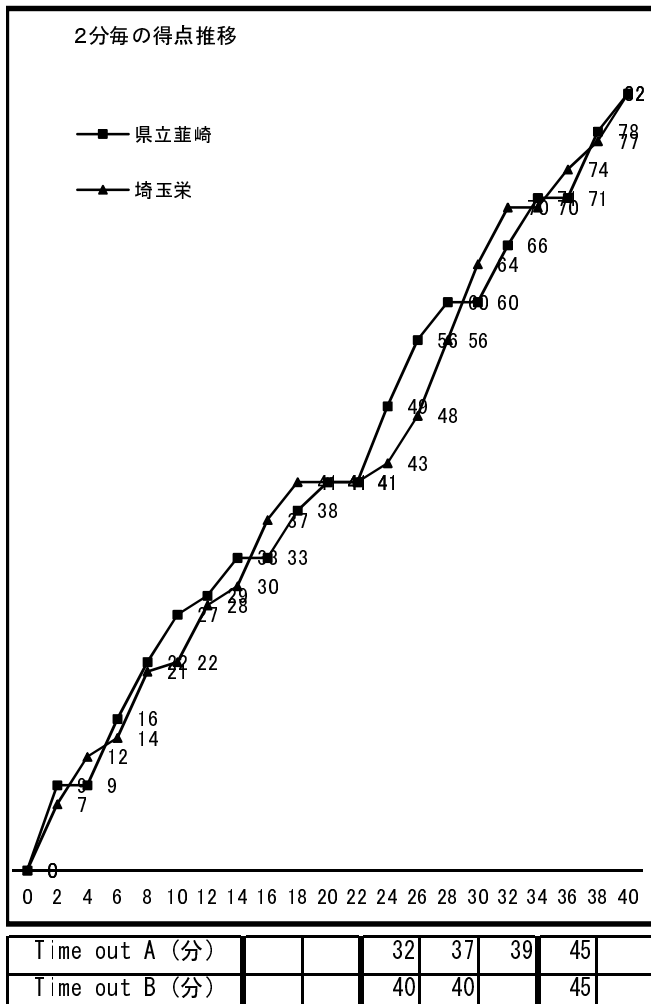
# 平成26年度 第25回 関東高等学校バスケットボール新人大会

女子1回戦		平成27年2月7日(土)		ALSOKぐんまアリーナ		大会1日目		Cコート		第3試合 12:30~																		
〈Aチーム〉			<table border="0"> <tr> <td rowspan="5" style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">88</td> <td rowspan="5" style="font-size: 4em; vertical-align: middle;">}</td> <td>27</td><td>-</td><td>22</td> </tr> <tr> <td>14</td><td>-</td><td>19</td> </tr> <tr> <td>19</td><td>-</td><td>23</td> </tr> <tr> <td>22</td><td>-</td><td>18</td> </tr> <tr> <td>6</td><td>-</td><td>13</td> </tr> </table>						88	}	27	-	22	14	-	19	19	-	23	22	-	18	6	-	13	〈Bチーム〉		
88	}	27	-	22																								
		14	-	19																								
		19	-	23																								
		22	-	18																								
		6	-	13																								
県立葦崎 (山梨)			95						埼玉栄 (埼玉)																			
主審		桑島汐織		副審		藺田美南																						

S	NO	氏名	得点	3P	2P	FT	Foul
○	4	伊藤 彩香	10	2	1	2	4
◎	5	相川 莉奈					4
○	6	小川 友理子					1
◎	7	宮垣 里帆	33	3	11	2	3
◎	8	石川 明日香	19	3	4	2	5
◎	9	田中 留莉	16		7	2	5
◎	10	長田 紘佳	10	2	1	2	2
○	11	古屋 志帆					
	12	逆瀬川 加那					
	13	三上 歩子					
	14	伊藤 夢摘美					
	15	若林 実咲					
	16	仲沢 里佳					
	17						
	18						
コーチ			逆瀬川 慶文				
			88	10	24	10	24

S	NO	氏名	得点	3P	2P	FT	Foul
◎	4	渡邊 あゆみ	28	1	9	7	4
◎	5	古川 夢子	25	1	7	8	1
◎	6	佐々木 春奈	6		2	2	4
	7	馬場 なな子					
	8	島田 茜					
	9	中屋 明					
	10	福岡 ほの香					
◎	11	梶原 理奈	22		9	4	1
○	12	梅津 ななみ					
◎	13	弘重 綾野	14	1	5	1	4
○	14	飯沼 七海					
	15	上澤 瑛					
	16	木村 萌花					
	17	山岸 奈々					
○	18	中島 伶那					
コーチ			一ノ瀬 和之				
			95	3	32	22	14

◎:スターター ○:出場 3P:3点シュート(本数) 2P:2点シュート(本数) FT:フリースロー(本数) Foul:パーソナルファウル



戦評 記入者: 小代 淳一

第1P、葦崎は2-2-1ゾーンプレスからハーフコートマンツーマン、埼玉栄はハーフコートマンツーマンでスタートする。葦崎は#8石川のインサイドプレイ、3Pシュートと#4伊藤、#7宮垣の3Pシュートで得点を重ねる。埼玉栄は脚力を活かしたディフェンスとその切り返しの速攻と#11梶原のポストプレイで対抗する。高さが有利な葦崎が27対22と主導権をとる。第2Pに入り、一進一退の攻防が続くが、葦崎#8石川にボールが入るとダブルチームを行うというディフェンスが功を奏し、5分で一旦35対34と埼玉栄が逆転に成功する。41対41の同点で前半を終了する。第3Pに入り、お互い攻めあぐねた時間を経過したが、葦崎のシュートが決まりだし、5分で53対43と葦崎が10点差をつける。そこで、埼玉栄はディフェンスをフルコートでプレッシャーを掛け、残り1分で60対60と振り出しに戻し、その勢いで4点差をつけて逆転に成功する。4Pに入り、葦崎は1-3-1ゾーンに変え、埼玉栄の脚を止めようとするが、逆に葦崎が脚が止まり、早撃ちの3Pがリングに嫌われる。埼玉栄ももらったフリースローがの確率が悪く、どちらも主導権を取れないで、82対82で延長戦に突入する。延長に入り、葦崎は果敢に3Pシュートを打つが、リングに嫌われ、埼玉栄に速攻を許す。残り2分で87対84と埼玉栄がリードを奪う。ディナイからのインターセプトによる得点で万事休す。高さに勝った葦崎に対して、終始脚を止めなかった埼玉栄に軍配が上がった。素晴らしい試合を展開し両チームに大きな拍手を送りたい。